

令和 7 年上半期における特殊詐欺等の情勢について

※ 令和 6 年中の数値は確定値、令和 7 年中は暫定値、各数値の増減は前年同期比を示す。

【 特殊詐欺の特徴 】

- ・ 特殊詐欺の認知件数と被害額は、いずれも前年同期比で増加
- ・ 特に、被害額については過去最多を認知した令和 6 年中の約 32 億 7,000 万円に迫る勢い
- ・ オレオレ詐欺の認知件数と被害額が急増
- ・ 警察官騙りのオレオレ詐欺、インターネットバンキング利用による被害が増加
- ・ 現役世代の被害者の割合が急増

【 SNS 型投資・ロマンス詐欺の特徴 】

- ・ SNS 型投資・ロマンス詐欺の認知件数と被害額は、いずれも前年同期比で減少
- ・ SNS 型投資詐欺の認知件数と被害額は、いずれも前年同期比で減少したものの、SNS 型ロマンス詐欺の認知件数と被害額は、いずれも前年同期比で増加
- ・ 交付形態は振込型と暗号資産が多く SNS 型投資詐欺で 97.9%、SNS 型ロマンス詐欺で 94.1 %を占め、振込型のうちインターネットバンキング利用によるものが SNS 型投資詐欺で約 69.6%、SNS 型ロマンス詐欺で約 49.1%を占める
- ・ 欺罔に利用されたツールについては昨年同様 LINE が多い

1 特殊詐欺の認知状況

(1) 情勢全般

- 令和 7 年上半期における特殊詐欺の認知件数は 962 件で、前年同期と比較すると 363 件増加。被害額は約 30 億 4,000 万円で約 20 億 9,000 万円増加
- 1 件当たりの被害額は約 316 万円で前年同期と比較すると約 167 万円増加
- 手口別の認知件数と被害額では、オレオレ詐欺が大幅に増加
- 交付形態別の被害割合をみると、特にインターネットバンキング利用による被害額が大幅に増加

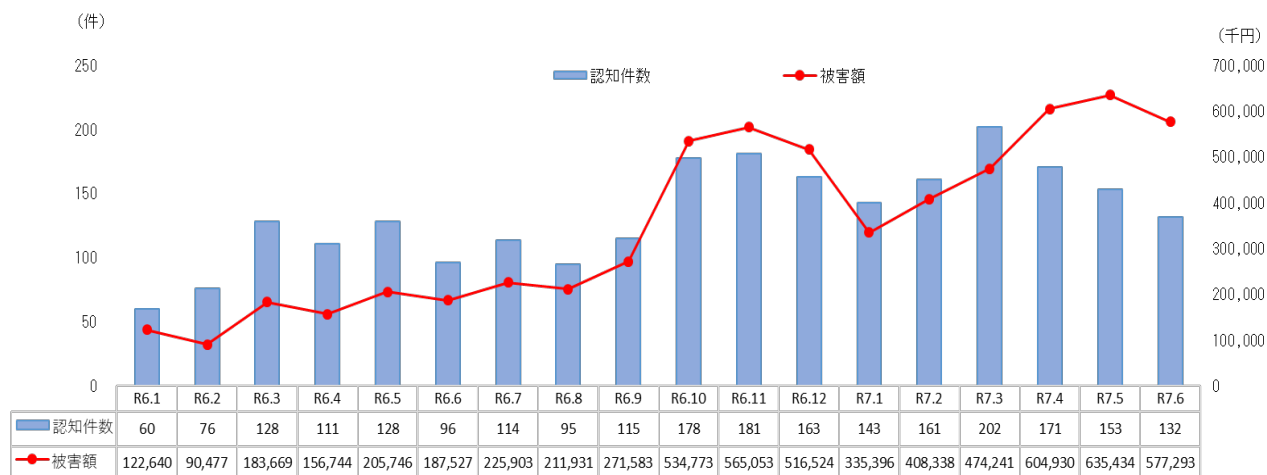
図表 1 認知件数

	R2	R3	R4	R5	R6	R6.6末	R7.6末	増減	増減率
オレオレ詐欺	44	32	61	86	244	77	325	248	322.1%
預貯金詐欺	348	69	58	94	143	47	73	26	55.3%
架空料金請求詐欺	217	305	410	511	424	195	195	0	0.0%
還付金詐欺	288	310	394	355	456	194	285	91	46.9%
その他	35	20	12	14	53	26	44	18	69.2%
キャッシュカード詐欺等	95	123	139	164	125	60	40	-20	-33.3%
総計	1,027	859	1,074	1,224	1,445	599	962	363	60.6%

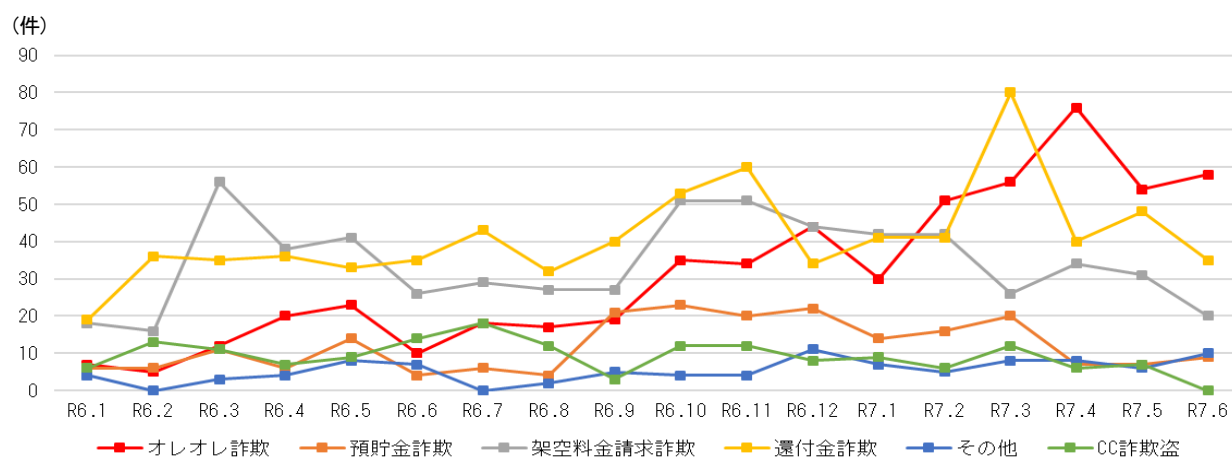
図表2 被害額（千円）

	R2	R3	R4	R5	R6	R6.6末	R7.6末	増減	増減率
被害額	1,688,603	1,198,179	1,908,648	2,192,117	3,272,570	946,803	3,035,632	2,088,829	220.6%

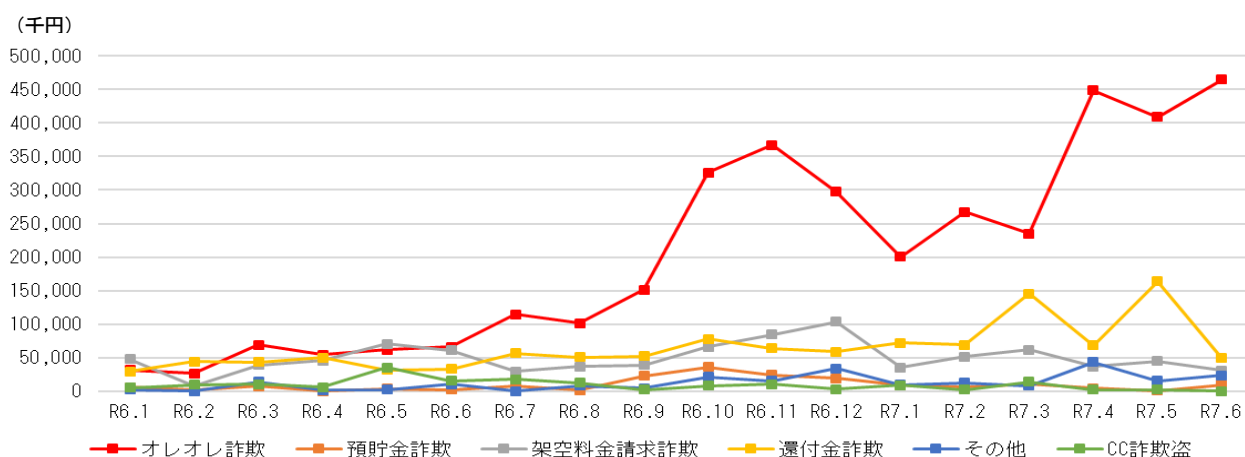
図表3 特殊詐欺の認知件数・被害額の推移（月別）



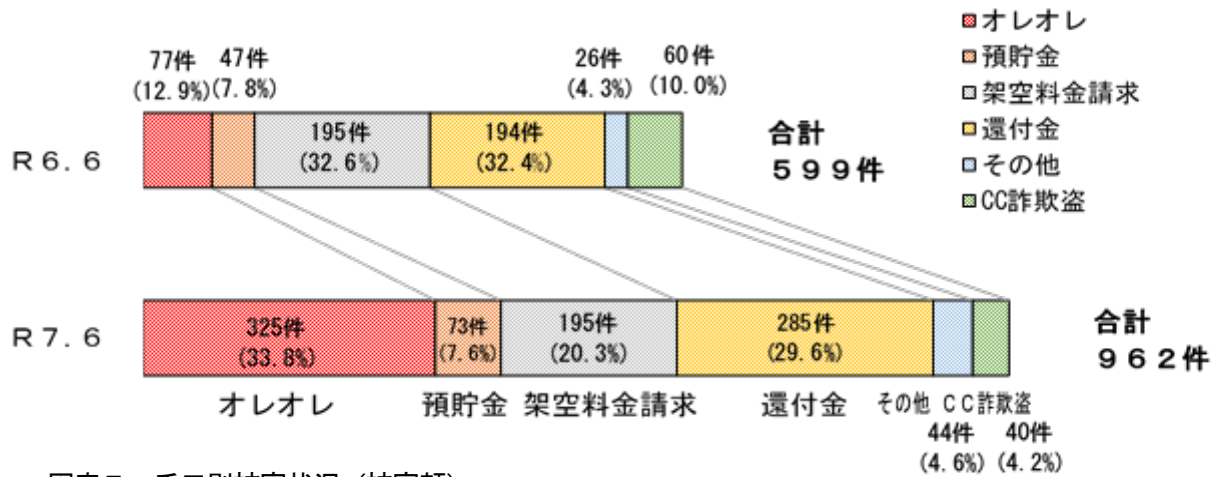
図表4 認知件数の推移（類型別）



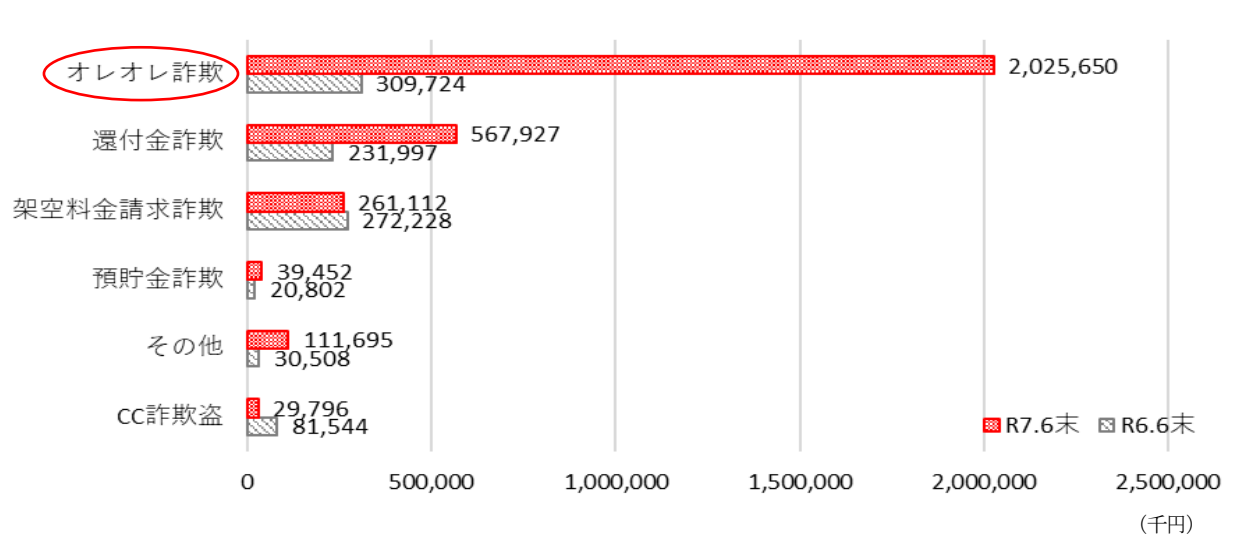
図表5 被害額の推移（類型別）



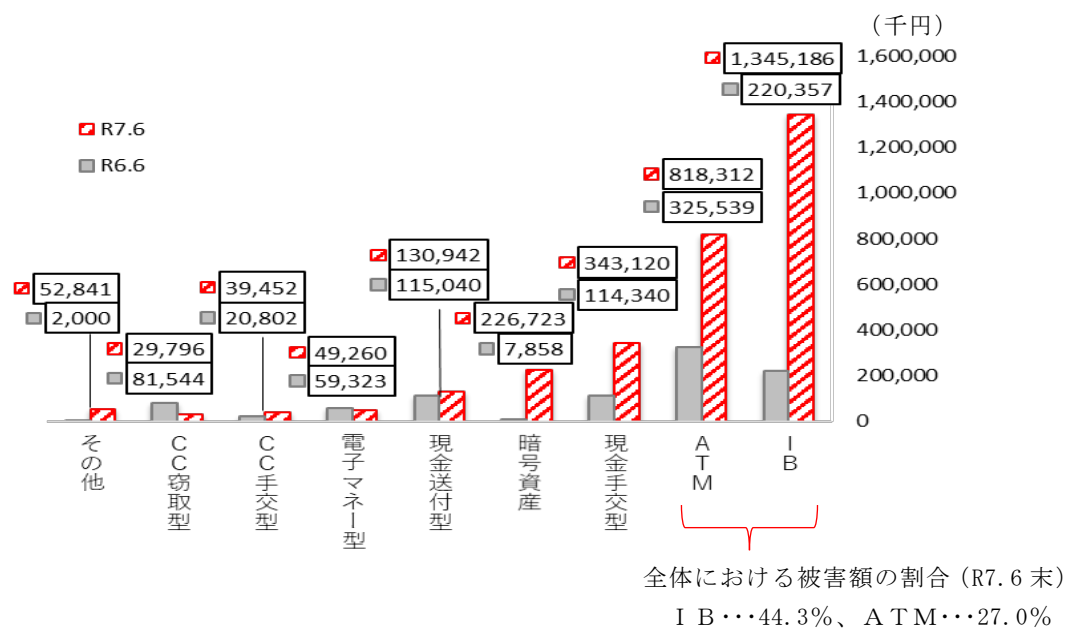
図表6 手口別被害状況（認知件数）



図表7 手口別被害状況（被害額）

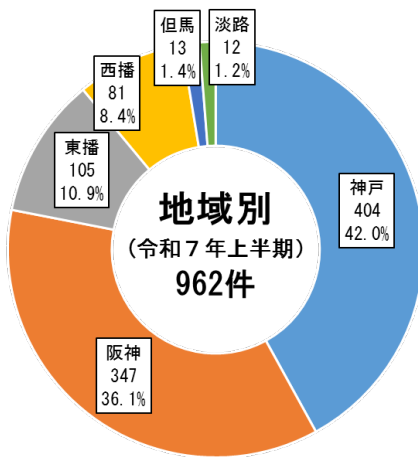


図表8 交付形態別被害状況（被害額）



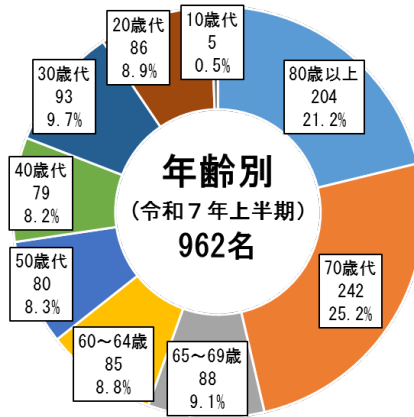
※ IB・・・インターネットバンキング

図表 9 地域別の割合



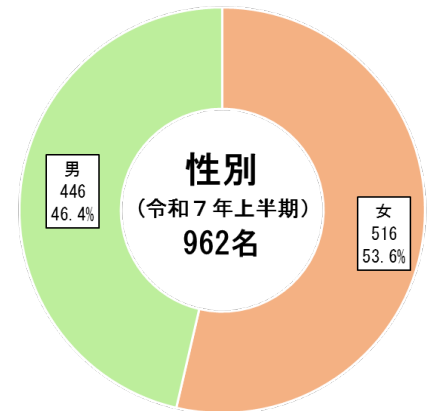
神戸・阪神地域が全体の 78.1%

図表 10 年齢別の割合



高齢者（65歳以上）が全体の 55.5%

図表 11 性別の割合



女性が全体の 53.6%

(2) オレオレ詐欺の被害状況

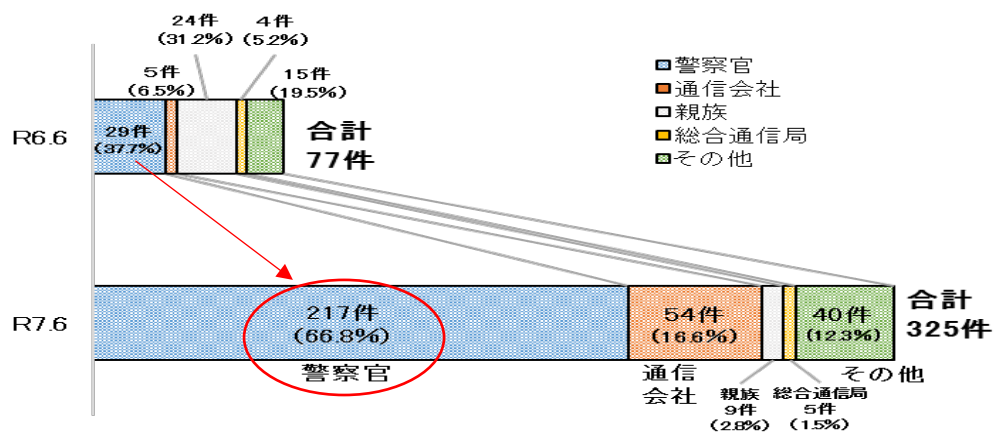
- 1件当たりの被害額は約623万円で前年同期と比較すると約221万円増加
- 騙り別の発生状況割合をみると、令和6年6月末では警察官騙りが37.7%であったが、令和7年6月末では66.8%と増加
- 交付形態別割合をみると、令和6年6月末ではインターネットバンキングが約1億2,000万円であったが、令和7年6月末では約10億2,000万円と大幅な増加
- 被害者の割合は、65歳未満が全体の65.1%であり、現役世代の被害が増加

【手口の典型例】

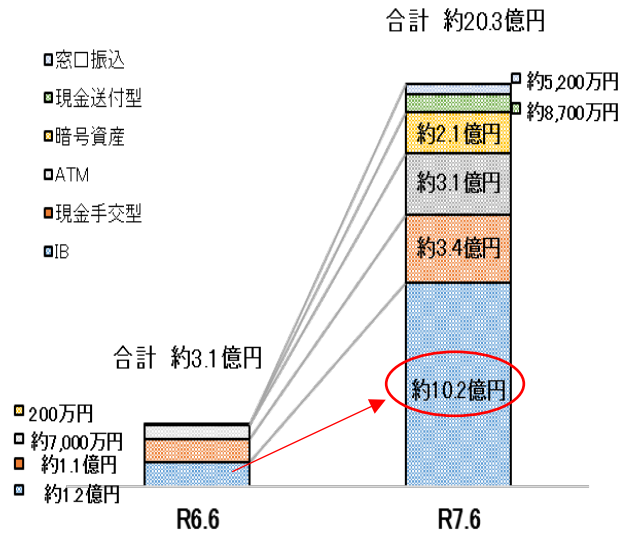
警察官を騙り、被害者が犯罪に関与していることを電話で告げ、LINEに誘導した後、偽の警察手帳や逮捕状を示し、警察官であることを信用させ、「資金調査」や「保釈金」などの名目で、インターネットバンキングから送金させる手口

また、本年に入り、上記手口で現金を振り込ませた上、「タトゥーが入っているか確認する。」などと言い、裸にさせる手口も認知

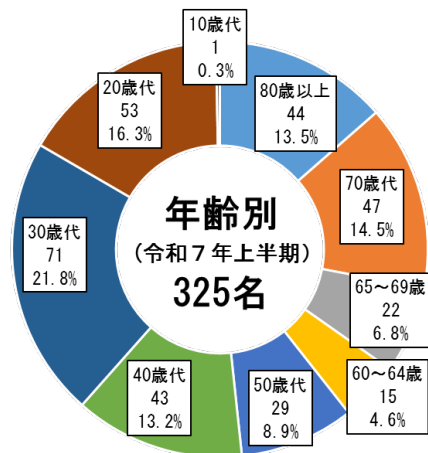
図表 12 騙り別発生状況（オレオレ詐欺）



図表 13 交付形態別発生状況



図表 14 被害者年代別発生状況



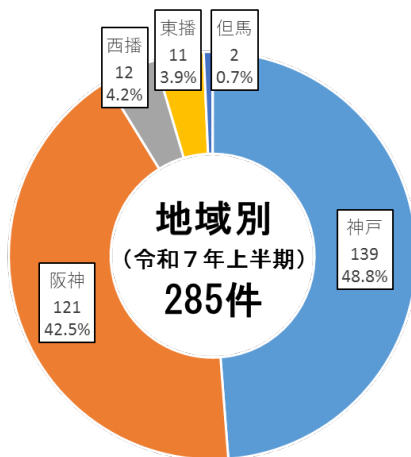
(3) 還付金詐欺の被害状況

- 1件当たりの被害額は約199万円で前年同期と比較すると約79万円増加
- 地域別の割合をみると、神戸・阪神地域が全体の91.3%を占める
- 年齢別の割合をみると、高齢者（65歳以上）の割合が、全体の85.7%を占める

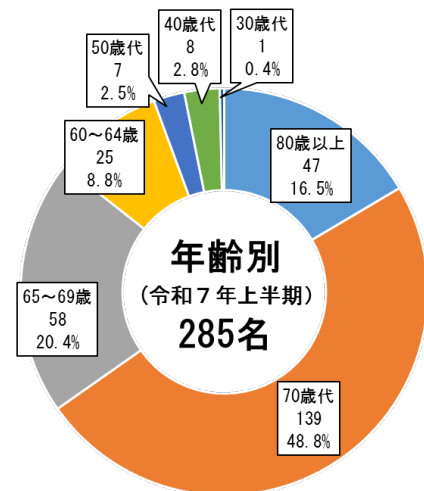
【手口の典型例】

市役所職員を騙り、自宅固定電話に「還付金が受け取れる」などと電話をかけ、ATMに誘導し、現金を振り込ませる手口

図表 15 地域別の割合



図表 16 年齢別の割合



(4) 相談件数

令和7年6月末では8,963件受理し、前年同期比で4,653件増加

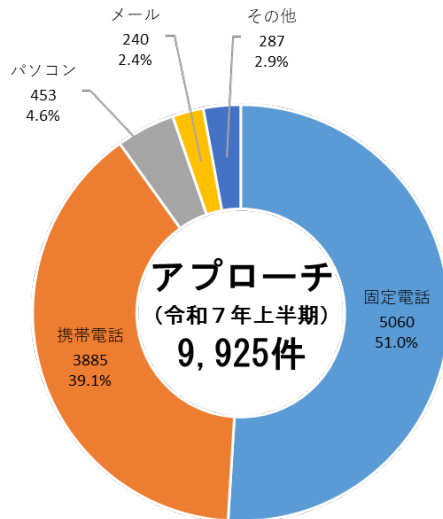
図表 17 相談の推移

	R2	R3	R4	R5	R6	R6.6末	R7.6末	増減	増減率
相談件数	4,769	3,976	5,028	7,633	10,443	4,310	8,963	4,653	108.0%

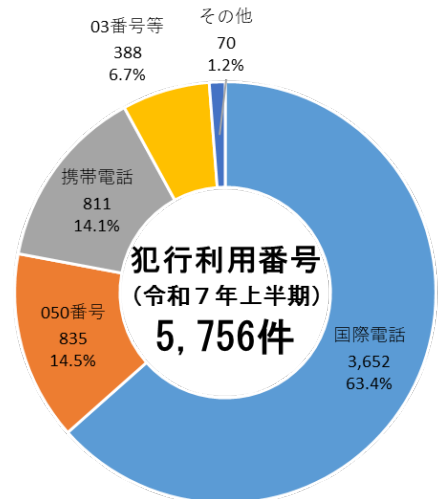
(5) 犯行ツール

- 犯人からのアプローチ状況の割合をみると、固定電話が 51.0%、携帯電話が 39.1%を占める
- 被害・相談で判明した犯行利用電話番号種別状況の割合をみると、国際電話が 63.4%を占める

図表 18 犯人からのアプローチ状況



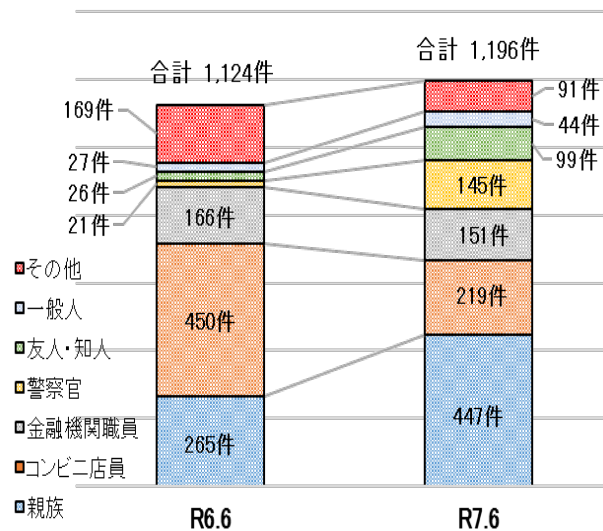
図表 19 被害・相談で判明した犯行利用電話番号種別状況



(6) 水際阻止状況

- 令和 7 年 6 月末において、親族などの声掛けにより、被害を水際で阻止した件数は 1,196 件であり、前年同期と比較して 72 件増加

図表 20 水際阻止者状況



(7) 検挙状況

令和7年6月末では、80件41名を検挙

図表 21 特殊詐欺被疑者検挙人員の推移

	R2	R3	R4	R5	R6	R6.6末	R7.6末	増減	増減率
検 挙 件 数	226	211	148	192	207	83	80	-3	-3.6%
検 挙 人 員	86	80	48	77	64	26	41	15	57.7%

2 SNS型投資・ロマンス詐欺の認知状況

(1) 情勢全般

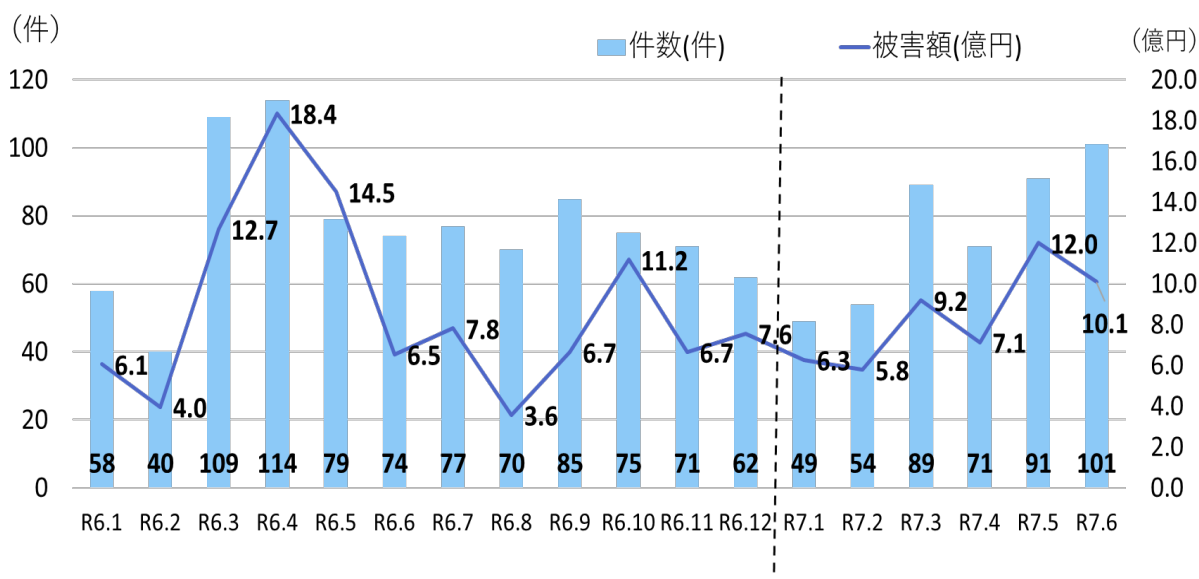
令和7年6月末におけるSNS型投資・ロマンス詐欺の認知件数は455件で、前年同期と比較すると19件減少、被害額は約50億5,000万円で同じく約11億7,000万円減少

月別推移をみると、昨年は4月の114件をピーク以後やや減少し75件前後で推移していたが、5月、6月と2か月連続で認知件数が増加

図表22 SNS型投資・ロマンス詐欺の認知件数・被害額

		R5	R6	R6.6末	R7.6末	増減	増減率
総計	認知件数	385	914	474	455	-19	-4.0%
	被害額(千円)	4,497,181	10,594,818	6,211,657	5,046,616	-1,165,041	-18.8%
SNS型投資詐欺	認知件数	263	601	335	284	-51	-15.2%
	被害額(千円)	2,801,623	7,094,512	4,832,293	3,303,188	-1,529,105	-31.6%
SNS型ロマンス詐欺	認知件数	122	313	139	171	32	23.0%
	被害額(千円)	1,695,558	3,500,306	1,379,364	1,743,428	364,064	26.4%

図表23 SNS型投資・ロマンス詐欺の認知件数・被害額の月別推移



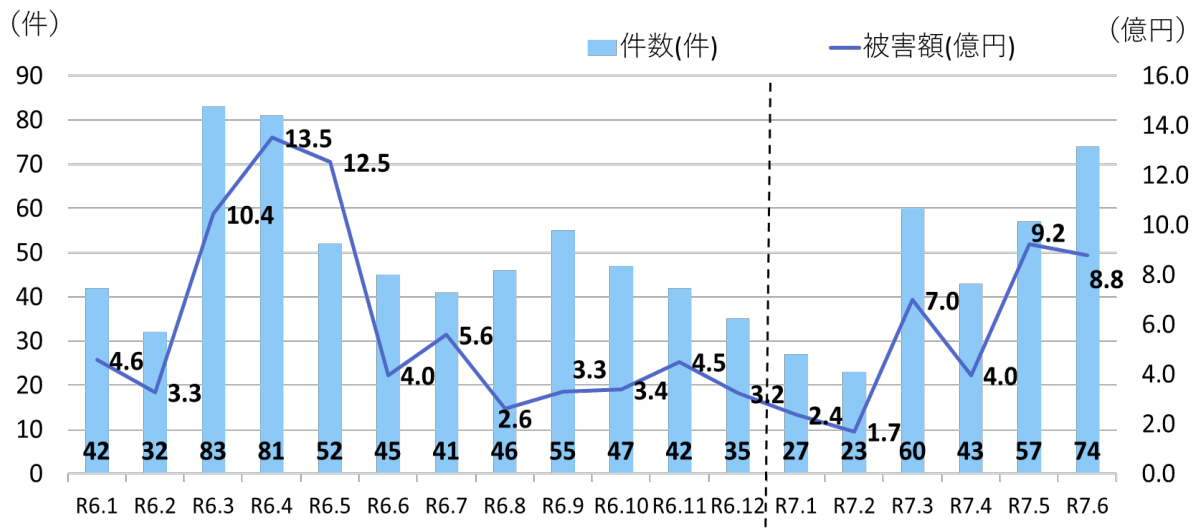
(2) SNS型投資詐欺の被害状況

- 令和7年6月末におけるSNS型投資詐欺の認知件数は284件で、前年同期と比較すると51件減少、被害額は約33億円で同じく約15億3,000万円減少したが、認知件数が2か月連続で増加
- 1件当たりの被害額は約1,163万円で前年同期と比較し約279万円減少
- 被害者の性別は、男性が165人、女性が119人、年齢層は男性が50代～70代、女性が40代～60代が多数を占め、幅広い年代に被害
- 被害金の主たる交付形態は振込型と暗号資産で全体の97.9%を占め、振込型の69.6%がインターネットバンキングを利用
- 最初の接触ツールとして昨年同様インスタグラムやフェイスブック、LINEでの接触が多く、今年はそれに加え投資のインターネットサイトやYouTubeによる接触が増加
- 欺罔に利用されたツールはLINEが依然として主であることは変わらず全体の88.0%を占める
- 最初の接触手段としてダイレクトメッセージ41.2%、バナー等広告36.3%で全体の77.5%と2つの手段が中心であることには変わらない

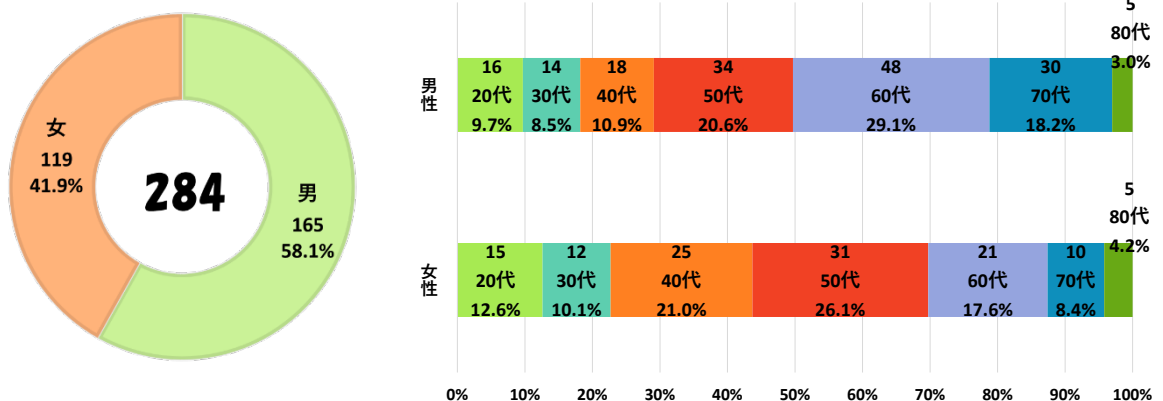
【手口の典型例】

- インスタグラム、フェイスブック、LINE 等のバナー等広告やダイレクトメッセージを入口にしてLINE でのやり取りへ誘導、投資話を持ち掛け、個人や法人名義の口座、暗号資産送金先アドレスを指定し現金を振り込ませる、暗号資産を送金させる等し、投資アプリ上で利益が出ているように見せかけ、出金を試みると様々な理由をつけ出金に応じず、騙し取る手口
- バナー等広告の「動画を視聴するだけで少額の報酬がもらえる」などと謳う副業を入口とし、その後、高額タスク等と称し「自己の資金を振り込むと利益が出る」と謳う投資話に誘導し、金銭をだまし取る手口

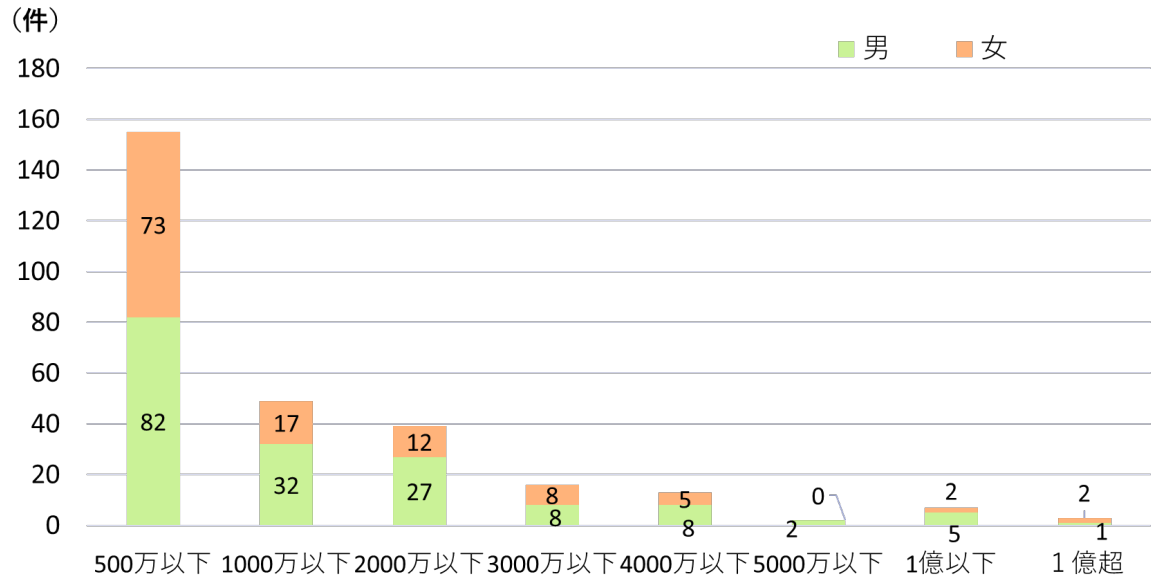
図表 24 月別推移（SNS型投資詐欺）



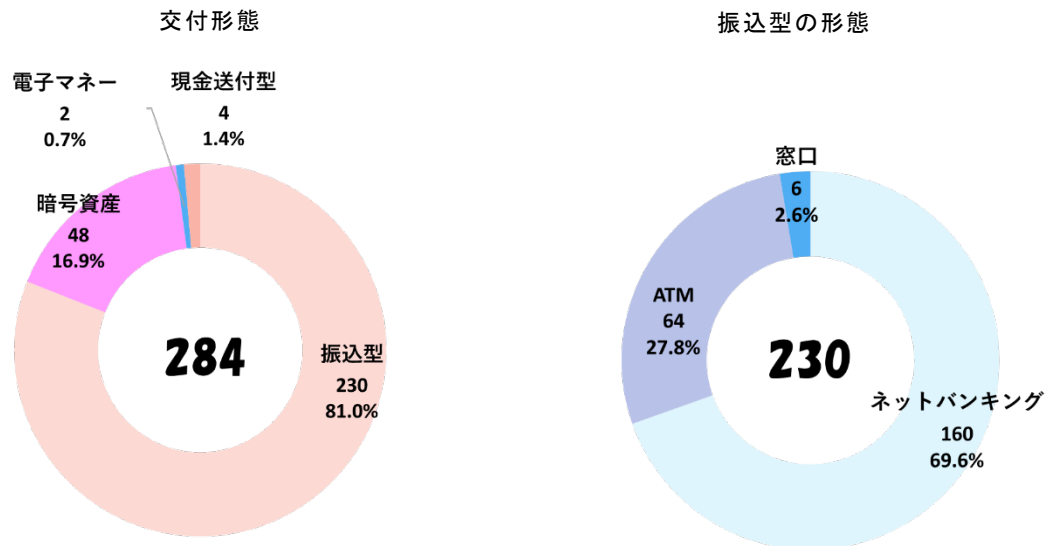
図表 25 被害者の性別及び年齢層



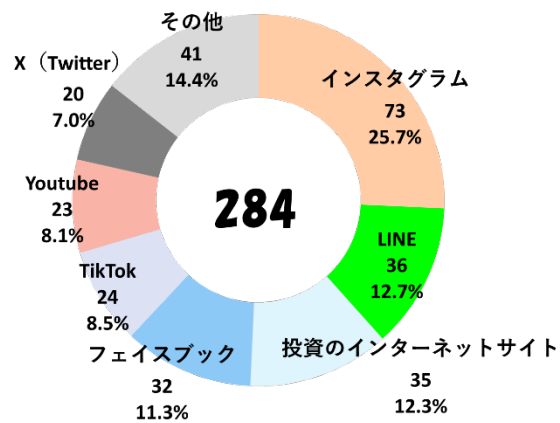
図表 26 被害額の分布



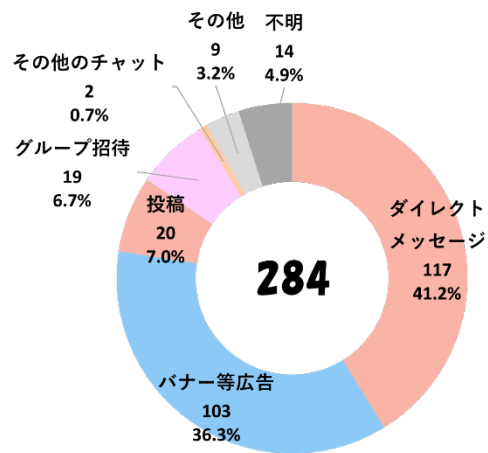
図表 27 被害金の主たる交付形態、振込型の形態



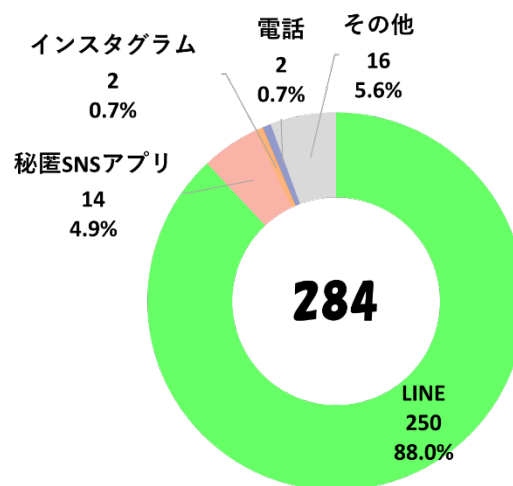
図表 28 犯行ツール（最初の接触ツール）



図表 29 接触手段



図表 30 欺罔に利用されたツール



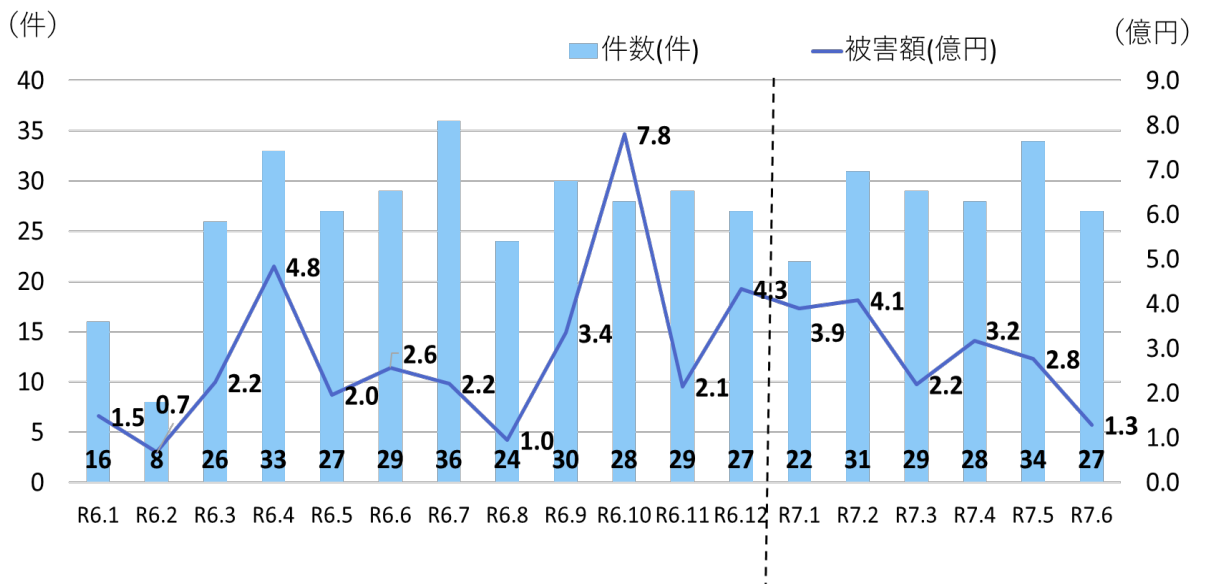
(3) SNS型ロマンス詐欺の被害状況

- 令和7年6月末におけるSNS型ロマンス詐欺の認知件数は171件で、前年同期と比較すると32件増加、被害額は約17億4,000万円で同じく約3億6,000万円増加
- 1件当たりの被害額は約1,020万円で前年同期と比較し約27万円減少
- 認知件数は75.4%、被害額は41.9%が投資名目
- 被害者の性別は、男性が100人、女性が71人、年齢層は男性、女性ともに40代～60代が多数を占め、現役世代も被害
- 被害金の主たる交付形態は振込型と暗号資産で全体の94.1%を占め、振込型の49.1%がネットバンキングを利用
- 最初の接触ツールとしてマッチングアプリやインスタグラム、フェイスブックで全体の74.3%
- 欺罔に利用されたツールは91.8%がLINE
- 最初の接触手段としてダイレクトメッセージが全体の95.9%
- ダイレクトメッセージの内訳はマッチングアプリ(29.3%)、インスタグラム(26.2%)、フェイスブック(19.5%)で全体の75.0%

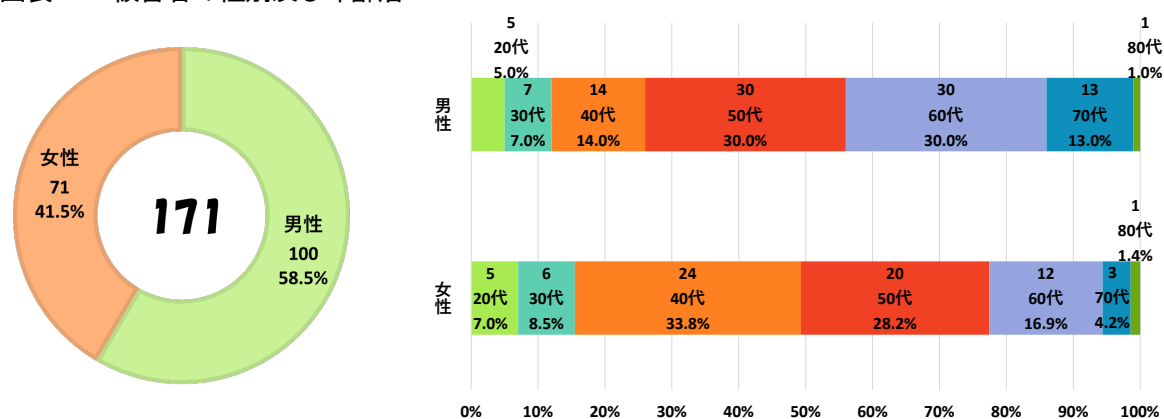
【手口の典型例】

- マッチングアプリ、インスタグラム、フェイスブック等のダイレクトメッセージで接触し、LINEでのやり取りへ誘導、やり取りを重ねて恋愛感情や親近感を抱かせ投資に誘導し金銭を騙し取る手口
- マッチングアプリ、インスタグラム、フェイスブック等のダイレクトメッセージで海外の医師や軍関係者を装って接触し、LINEでのやり取りへ誘導した後、やり取りを重ねて恋愛感情や親近感を抱かせ交際の継続を前提に渡航費や荷物の運送費名目で金銭をだまし取る手口

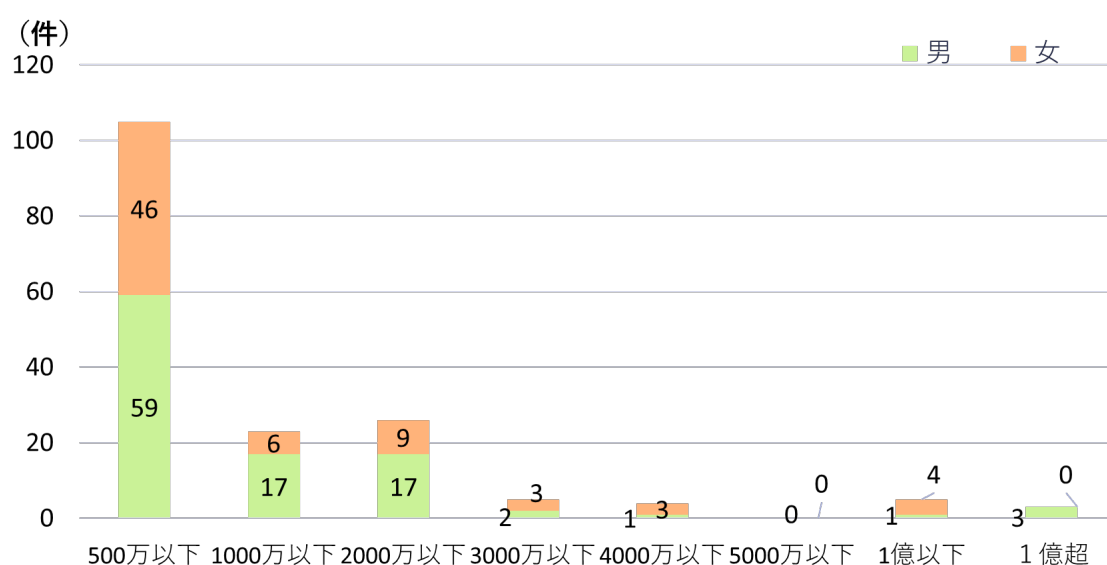
図表31 月別推移（SNS型ロマンス詐欺）



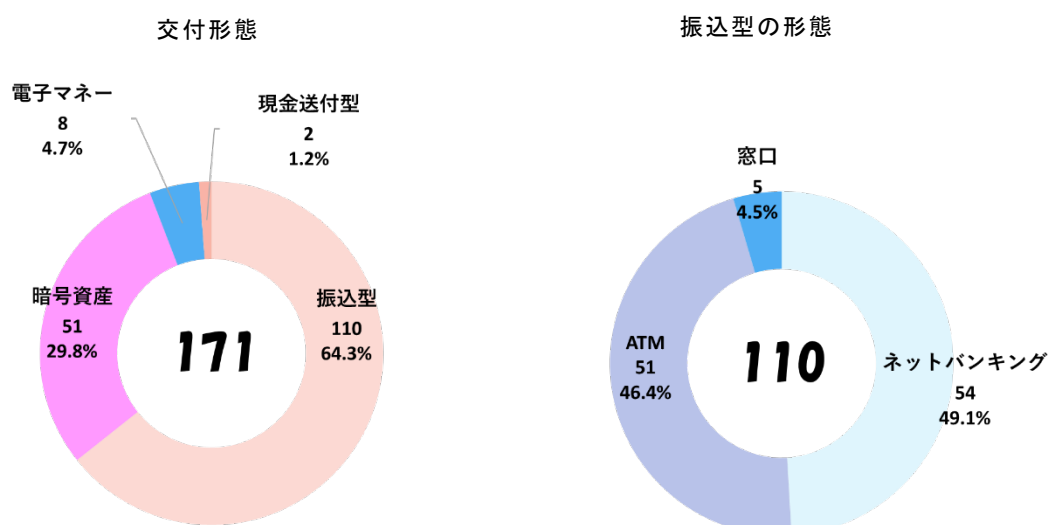
図表 32 被害者の性別及び年齢層



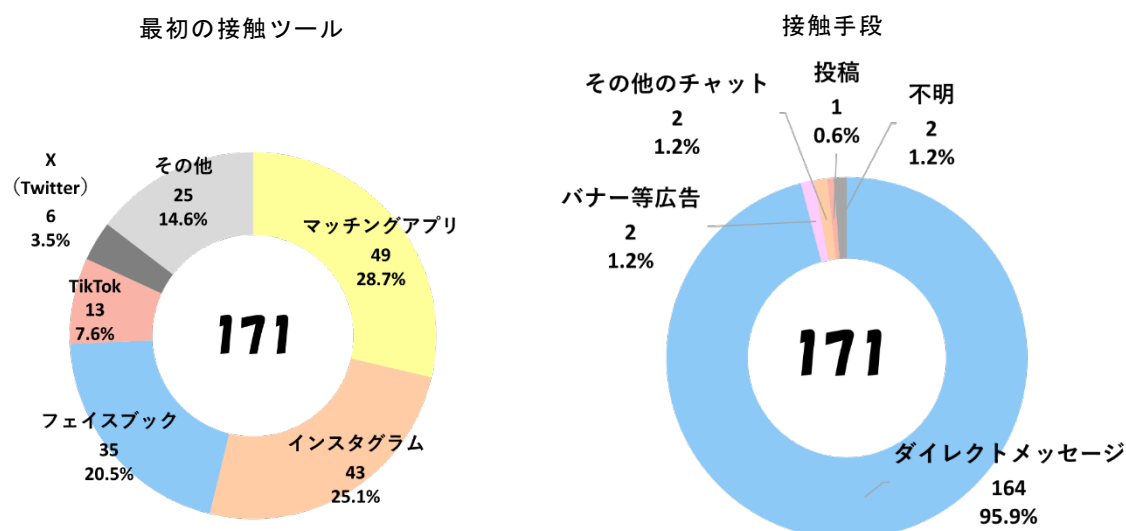
図表 33 被害額の分布



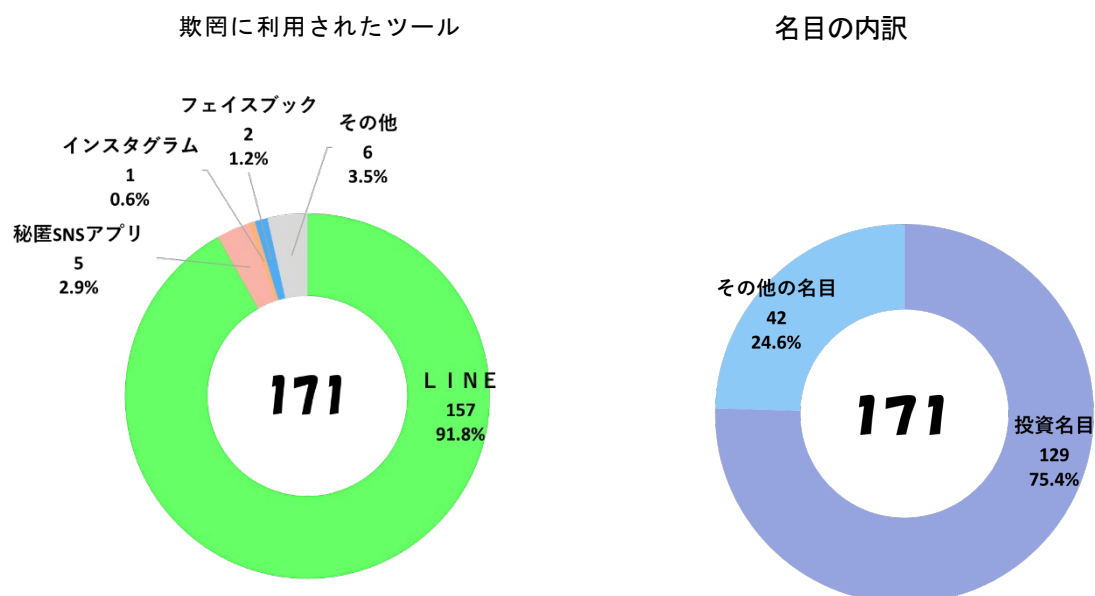
図表 34 被害金の主たる交付形態及び振込型のネットバンキング利用状況



図表 35 犯行ツール（最初の接触ツール・接触手段）



図表 36 欺罔に利用されたツール及び名目の内訳



(4) 検挙状況

令和7年6月末の検挙状況は、検挙件数11件、検挙人員8名

図表 37 検挙状況（SNS型投資・ロマンス詐欺の検挙件数・検挙人員）

		R6	R6.6末	R7.6末	増減	率(%)
総計	検挙件数	24	4	11	7	175.0%
	検挙人員	8	1	8	7	700.0%
SNS型投資詐欺	検挙件数	5	1	1	0	0.0%
	検挙人員	3	0	1	1	—
SNS型ロマンス詐欺	検挙件数	19	3	10	7	233.3%
	検挙人員	5	1	7	6	600.0%